

会 議 録

会議の名称	令和 8 年度第 2 回飯塚市子ども読書活動推進計画策定委員会
開催日時	令和 8 年 9 月 30 日(水) 10 時 00 分～11 時 50 分
開催場所	イイツカコミュニティセンター3 階 セミナー室
出席委員	高田委員、矢野委員、中堀委員、宮本委員、野見山委員、岡松委員、綿引委員、松村委員 以上 8 名
欠席委員	高野委員
事務局職員	井尻生涯学習課長補佐、松尾中央公民館・図書館係長、黒川中央公民館・図書館係
指定管理者	出席なし
発言者	発言内容
事務局	1 開会のことば 会議成立報告・資料確認 ～以下、進行は高田副委員長～ 2 議事 (議案第 1 号) 第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画の構成(目次)について 資料 1 の構成案と、国・県・前計画との新旧対照表である資料 2 を提示し、第 3 次計画の主な構成について各章ごとに説明を行った。第 1 章では意義の記載を省いて簡素化し、国・県の動向と本市の状況を加えて上位計画との関連性を明確にした。第 2 章では「子どもの読書を取り巻く現状と課題」とし、4 つの主体(家庭・地域、保育所等、学校、市立図書館)別に成果と課題を整理するとともに、令和 7 年度のアンケート結果で数値的な裏付けを持たせた。第 3 章では新たな基本目標・基本方針と成果指標を設定し、第 4 章では 4 主体ごとの役割や具体的取組を明記して誰が何を行うかを示した。第 5 章では推進体制と評価の見直しを明記し、計画の実効性を担保する狙いである。
委員	国や県と策定期間がずれているが合わせる必要はないのか。
事務局	過去に策定の時期がずれたことが関係している。今後は飯塚市の計画期間を 6 年間に延長するなどし、国や県との策定期間を揃えるための調整も視野に入れて検討する必要があると考えている。
委員	6 年間にすることは可能なのか。

事務局	今後、法的な部分などを含めて確認を行う。
事務局	(議案第 2 号) 第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画の基本目標について 資料 3 と資料 4 を提示し、基本目標の設定方針について述べた。計画の目的を分かりやすく伝えるため、上位計画との整合性や現状と課題を踏まえつつ、短くキャッチーで印象に残る表現にしたいと考え、「すべての子どもに豊かな読書体験」「自ら学ぶ喜びを」「発達段階に応じた豊かな読書体験」「自ら学び考える力を育む」「読書環境の充実」といった要素を含めた文言を検討している旨を説明。また、資料 4 にはあくまでサンプルとして複数の文言とその特徴を掲載しており、サンプルの組み合わせや全く新しい文言の提案など、委員から自由な意見をいただきたいと伝えた。
委員	資料 4 について、各委員から意見をいただきたい。
委員	「案②と⑤」がわかりやすくて良いと思う。
委員	案①「本との出会いで心が動く」へ微調整してはどうか。 案②「本をひらき、未来よひろがれ」へ微調整してはどうか。 案③「本とともに歩め」へ微調整してはどうか。 案④「本と出会い、未来をひらけ」へ微調整してはどうか。
委員	個人的には「案④」が、出会いから楽しんで今後につながる未来という言葉が入っていて定番として良いと感じている。また、別の観点として「案①」が良いとも思っている。理由は、主題と副題がある中で、主題には「目指す子ども像」を入れるべきだと考えており、「案①」にはその子どもの姿が記載されているからである。なお、他の委員から出た言葉の変更に関する意見についても、変更すること自体は問題ないと考えているが、引き続き主題に「目指す子ども像」が入っている方が良いと考えている。
委員	「本と出会い」というフレーズが入っているという点から「案①」が良いと思う。
委員	施策要綱との整合性が図れるという意味でも「案⑤」が良いと思う。
委員	「育成」や「推進」というフレーズがあるが、うまくいっていないところも多いように感じるため、今回一から作り上げるという意味で「創造」という言葉を使っている「案⑤」が良いと思う。

委員	少しサブタイトルが長いのは気になるが「案①」がいいと思う。
委員	各委員の意見を踏まえて、基本目標というかたちでどなたか出していただけるとありがたい。
委員	「案①」の冒頭の文言と「案⑤」の読書環境の創造のどちらを重視するかについて、「案⑤」の言葉を評価する意見がある一方で、「案①」の大きな方向性に賛同する声もある。そのため、「案①」をベースにしつつ、「案⑤」の「子どもを育む豊かな読書環境の創造」といった要素を組み合わせるのがよいのではないか。ただ、組み合わせると文言が長くなってしまうので、そこは事務局で調整してもらえればと思う。
事務局	先ほどの意見を参考にして事務局でまとめさせていただく。
委員	先ほどは主に「資料 4」についての意見を聞いたが、続いて「資料 3」についても意見等あればお願いしたい。 (意見なし)
事務局	(議案第 3 号) 第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画の基本方針について 資料 3 と資料 5 を提示し、基本方針の検討経緯と方針(案)について述べた。国や県の動向、第 3 次計画の流れを継承しつつ、現在の課題に対応できるよう見直したものであり、資料 5 に示した案はあくまでサンプルであると伝えた。サンプルの組み合わせや新しい文言の提案など、委員の間で広く意見を出し合って決定していきたいと依頼した。
委員	個人的に、学校がうまく読書推進に向かっていないのではないかと いう印象を持っており、学校側でもっと読書を推進する取り組みが できないかと感じている。その中で学校司書等も活用してほしいところ であるが、実際には司書が「読み聞かせ」や「ブックトーク」などを やろうと学校に相談しても、担任や学年主任から「時間がない」と言 われて断られるケースが多いと聞いている。一部の学校では実施でき た例はあるものの、現場から断られると司書たちも引かざるを得ない 状況にある。せっかく飯塚市に学校司書がしっかり配置されているの だから、もう少し学校現場で活動しやすくなるような取り組みや工夫 ができないものかと思っている。
委員	学校現場の状況をお話する。学校図書司書は子どもたちに本を繋ご うと一生懸命努力しているが、現在は教職員の働き方改革や教育課程

	の時数削減により、各学校で余裕時数がほとんど持てない厳しい実態がある。読書活動に限らず様々な取り組みが削られている状況であり、学校現場が読書を不要としてカットしているわけではない。また、昼休みなどを活用して図書館祭りを実施するなど現場でも工夫しながら取り組んでいただいている。
委員	削減を指示しているのはどこか。
委員	国から通知がある。
委員	教職員の働き方改革や行事の削減（運動会が午前中のみになったり、遠足が減ったりなど）が進んでいる現状は承知している。以前、学校図書館運営協議会でいただいた資料を見た際、学校ごとに年間計画が作成されていることを知った。例えば、その年間計画を共有し、読書ボランティアや市立図書館に提供することができれば、「この時期なら自分たちが入れそうだ」と把握できるようになり、無理なくボランティアや市立図書館が学校に入り込めるのではないかと思う。
委員	読書ボランティアの立場としては、学校から「来てください」と言われれば日程を調整して行く形であり、ボランティア側から「私たちに読書ボランティアをさせてください」とは言えない仕組みになっている。現在どれくらい活動が行われているか分からないが、以前は朝の読書の時間などにボランティアとして入ることが多かった。当時は 15 分から 20 分ほどの時間を確保できていたため、3 冊ほどしっかり本を読んで子どもたちとコミュニケーションをとることができた。しかし、現在は朝の読書時間が 10 分間に短縮されてしまっている学校が多いようで、自分自身も現在は朝に入るのを控えている。
委員	穎田地区を例に挙げても、朝の読書時間が 10 分間だと本当に本 1 冊しか読めず、時間を気にして慌ただしくなってしまうため、参加するボランティアのモチベーションにも関わってくる。一方で、事前にスケジュールが分かれば、参加したいと思っているボランティアはたくさんいるはずである。また、ある中学校で伺ったところによると図書室が 3 階にあるとのことだった。1 年生は同じ 3 階なので来やすいかもしれないが、1 階の生徒が短い休み時間の中で 3 階まで往復して本を借りるのは非常に難しいのではないかと思う。中学校の時間の確保や時間割の事情もあるとは思いますが、子どもたちがもっとうまく本にアクセスできるように、計画の共有や工夫ができると嬉しい。
委員	基本方針についての意見はないか。

委員	中学生くらいになると、どうしても普段はまとまった時間が取れなくなってしまう。しかし、朝の読書（朝読）などを推進していただけると、状況が変わってくるのではないかと思う。本当に 10 分間でも良いので、朝のホームルームなどの時間に「本を読みましょう」という取り組みを定着させてほしい。学校によってはしっかり取り組んでいるところもあるようだが、秋の読書週間の期間だけだったり、1 学期に 1 週間だけだったり、学校によって実施の形がバラバラである。毎日難しいのかもしれないが、例えば「1 ヶ月間集中して行う」など、少しまとまった期間で取り組めるようにすれば、1 冊くらいは本が読めるのではないかと思う。そういった趣旨の文言を計画に盛り込んでいただけるとありがたい。
委員	資料の基本方針において、方針 1 は「就学前から小学校、小学校から中学校といったライフステージの中で、途切れのない読書習慣をつないでいきましょう」という位置づけになっている。一方、方針 2 は「高学年や中学生になって時間がないと言われている中で、その時々読書がしやすい状況をどうやって作っていくか」という捉え方である。今委員からいただいた、学校での時間の確保やボランティアの活用、年間計画の共有、朝読の推進といった具体的なご提案は、まさにこの「方針 2」の実現に関わる内容だと言える。ここでは大きな基本方針や方向性を決める段階であるため、いただいたご意見は、この後に出てくる各施設や分野での実際の施策・取組に落とし込んでいく形にするのが良いのではないかと思う。基本方針の大きな方向性として、こうしたご意見を踏まえて考えていければよいのではないかと考える。
事務局	（議案第 4 号）第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画の取組内容について 資料 6 を提示し、計画推進に必要な取組内容を主体ごとに整理したことを述べた。各主体の特徴や役割、それを活かせる具体的な取組方法に加え、連携が想定される部署や基本方針との関連性を記載している。これにより、各主体が取り組むべき内容を明確にし、計画をスムーズに推進できるようにしていると伝えた。
委員	資料 6 の最初のページにある（2）取組内容の「ブックスタート事業の継続強化」の項目について確認したい。具体的な方法として、「乳児健診、乳幼児訪問事業等と連携した絵本の配布」や、最後の「集団検診、災害時の直接配布体制の整備」という記載がある。以前確認したところ、かつては 4 か月健診などの乳幼児健診で直接配布されていたようだが、現在は 4 か月健診や 8 か月健診がすべて「個別健診」とな

委員	っており、集団健診としては実施されていない状況であると聞いている。そのため、計画の記載において「乳幼児健診」という文言をこのまま残すべきなのか、それとも削除して「乳幼児訪問事業等」に絞ったほうがよいか、この記載の妥当性について確認したい。 同じ内容の意見になる。資料では「ブックスタートボランティアの育成・確保」となっているが、現在ブックスタートボランティアは活動していない。先ほど発言があったように、現在は乳児健診が個別で行われているため、私たちが活動する場はなくなっている。以前、1歳半健診などの際にボランティアとして入ったこともあるが、会場はバタバタしており、保護者の方も検診を受ける目的で来ているため、ゆっくり絵本を見られるような環境ではなく、子どもが少し立ち止まって見る程度で、あまり効果があるとは思えなかった。そのため、自分も辞めてしまった。ただ、本を配るだけでは、保護者の方がちゃんと読んでくれているのかが非常に気になるころではある。本を配ること自体は悪いことではないが、このあたりの実態に合わせて、記載の仕方をもう少し変えていただいたほうがよいのではないかと思います。
委員	もし集団検診での実施が難しいのであれば、様々な支援センターなどで実施するのも良いのではないかと個人的には思っている。以前、学校図書館運営協議会などの場でも話が出たが、乳幼児期にブックスタートとして読み聞かせをして絵本を配布するという流れは、子どもの成長にとっても非常に良いアプローチだと感じている。講師の先生と打ち合わせをした際にも、「乳幼児期からのアプローチが大事であり、読み聞かせをした上で絵本を配布することに意味がある」という話が出た。4か月児時点ではまだ早いと感じるかもしれないが、子どもや親の心に残るものだと思っている。現在集団検診が行われていないという現状はあるものの、その後のフォローアップ事業などの中で、そうした読み聞かせと配布ができるような場づくりができればよいのではないかと思います。
委員	よその支援センターなどでは、結構読み聞かせが行われているのではないかと思います。支援センターのスタッフとボランティアのメンバーが重なっていることも多く、絵本のことをよく知っているボランティアがスタッフとして入っているため、支援センターには絵本がたくさん置いてあり、お母さんたちからの相談にのったりおすすめの本を紹介したりといったことができています。ただ、そうした場所は、どうしても来る方が限定になってしまうという残念な面もある。やはり以前のように、4か月健診の際などに全員に向けて読み聞かせを行い、「4か月の時期でも絵本を見るんですよ」とお母さんたちに伝えるような

	機会があると良いと感じており、集団検診の時に入れるような考え方もあっても良いのではないかと思います。また、それ以外にも、例えば離乳食教室などの機会に少し入れてもらうといった取り組みがあっても良いのではないかと。ちなみに、ブックスタートのほかに、家読（うちどく）事業などは現在どのような状況になっているのだろうか。
事務局	家読事業の推進については、読書好きを育む環境づくりイベントやおすすめ本リストの作成などを実施している。また、校長会を通じて各学校の先生方にも推進をお願いしているところである。
委員	中学生への家読の推進も行われているのか。
事務局	飯塚市の現在の取り組みとしては、中学校に対して保護者向け配信アプリを活用し、夏休み前におすすめの本リストを配信して読書を促すといった取り組みを行っている。他の自治体の事例に関する具体的な内容については、現在まだ十分に調査できておらず、ここで具体的な事例をご紹介することはできないが、今後その点も含めてしっかりと調査を進めていきたいと考えている。
委員	他の自治体の事例として、11 市町村の読書に関する交流部会に参加した際にお聞きした赤村の取り組みが参考になる。赤村では、読書推進の取り組みとして小学校低学年から中学生までを対象に「家読カード」を配布し、読んだ本の感想を記入できるようにしている。また、一般の住民向けには、自分が読んだ本のリストを作成・記録できるブックリストや、他の自治体でもよく耳にする「読書通帳」のようなものの配布も行われている。こうした他自治体の事例も参考にしながら、家庭や保護者をしっかりと巻き込んでいく仕組みづくりを計画に取り入れていくのは、非常に有効な選択肢の一つである。
委員	この計画における具体的な方向性として、各主体が表に記載されている取組をどのように成果に結びつけていくか、その手法を考えていく必要がある。先ほど挙がっていた保護者参加型の取り組みなども有効であると考えられ、そうした内容を計画期間中に実施したり調査したりしていくという位置づけで、計画書に列記されていると捉えている。公立保育所であれば状況を把握しやすい一方で、私立保育所は民間運営であるため、どこまで踏み込めるかという調整の難しさもある。例えば、保育参観などの機会に合わせておはなし会と一緒に実施するといったアイデアも考えられるが、こうした手法が有効ではないか、このようなことも検討してみてはどうかという方向性を示していく意味合いで、具体的な手法として計画書に盛り込んでいく形でよいのは

	ないかと考えている。
委員	市立保育園の状況を調べることはできるのか。
事務局	昨年度実施したアンケートにおいて、私立保育施設を対象とした読み聞かせの実施や本の貸出状況等の回答データがすでに存在する。
事務局	（議案第 5 号）第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画の成果指標について 資料 7 を提示し、計画の進捗や達成状況を測定するための成果指標を基本方針ごとに整理したことを述べた。1 つの基本方針につき 6 つの指標をサンプルとして示しており、これらを用いることで各方針の達成状況を的確に把握できると考えている。本日は委員から多角的な視点で意見を聞き、次回に整理したものを提示したいと伝えた。
委員	基本方針Ⅰからご意見を伺いたい。
委員	保護者向け情報提供と意見交換の実施回数についてはどのようなものを想定されているのか。
事務局	保護者との意見交換会を想定している。あくまでも指標のサンプルとして記載をしているが、実施が難しいと思われる項目があればご意見をいただいで、計画案に反映させていただきたいと考えている。
委員	個人的には不読率 0 名という状況をなくしたいと考える。 続いて基本方針Ⅱについてご意見を伺いたい。
委員	読み聞かせボランティアの活動校・園数及び中学校の朝読書等実施率は興味がある。
委員	学校図書室の蔵書冊数については、すでに学校ごとに充足基準が定められており、教育総務課が毎年購入予算を確保している。そのため、蔵書冊数の増減をもって読書環境の充実度を測ることは指標として適切ではなく、そもそも充足されているべきものであることから、次期計画の指標として掲げるべきではないと思う。また、デジタル教科書の導入状況についても、教科書としてそもそも導入せざるを得ない性質のものであるため、指標としては適切ではないと考える。
委員	電子図書館の記載もあるが、今現在導入していないため不適切であると考えている。

委員	中学生の生活実態調査とはどのような内容か。
事務局	生活実態という言葉どおり、日常におけるスマホ及びタブレットの利用時間や部活にかける時間など、子どもたちの生活に関する調査を想定している。
委員	飯塚市の各種事業において、目標の達成度を客観的な数値で検証するため成果指標を設定することは一般的であり、今回もそれを実施することが提案の背景にある。成果指標はこれまで作成したことがないため、今回は一般的なサンプルとして基本方針ごとに 6 項目を挙げたが、より数値化しやすく飯塚市の取組を表現しやすいものや、委員の意見を踏まえた視点を取り入れることが求められている。冒頭で事務局から説明があったように、多数挙げた項目の中から効果的な指標をいくつか選定し、それを年々検証することで基本方針の達成度を図ることが本来の目的である。本日は実施困難な項目や分かりやすい数値についての意見も出されたため、それらを踏まえて事務局側で指標を絞り込みや効果的なものの検討を行い、成果指標の設定につなげていただきたいと思う。なお、この場に挙がっていないからといって成果として掲げないわけではなく、各項目の必要性については、本日の意見を含めたうえで事務局で検討してほしい。
委員	デジタルデバイス活用調査研究の実施状況と中学生の生活時間実態調査は、内容的にちょっと被る気がするため、どちらか一つで良い。 3 その他 (意見なし) 閉会 11:50
会議資料	・令和 8 年度第 2 回飯塚市子ども読書活動推進計画策定委員会次第 ・資料 1 前回会議のまとめ ・資料 2 各計画 目次対照表 ・資料 3 第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画「基本目標」「基本方針」に関する方向性 ・資料 4 第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画 基本目標 (案) ・資料 5 第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画 基本方針 (案) ・資料 6 第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画 取組内容 (案) ・資料 7 第 4 次飯塚市子ども読書活動推進計画 成果指標 (案)
公開・非公開の別	1 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者 0 人)
その他 (非公開理由等)	